

センターに向かって進め その2

本校のセンター試験会場は、医療創生大学(昨年までのいわき明星大学)である。いわき市の高校生にとって、この会場はとても恵まれているとって過言ではない。

まず、雪が降らない。大学の場所が郊外なので、騒音にも無縁で静寂この上なく、空気も清浄である。

周囲の環境からも隔絶されており、校地の敷地が広く、教室も清潔で新しい。入場場所から試験会場に移ると、その間にも距離があるので、生徒一人一人にとっては程よい空間となる。

昼食をとる食堂等の施設もきちんと整備され、教員たちが陣取る各学校のスペースもその食堂内部にあり、質問等が可能である。

県北の生徒たちは、福島大学と県立医科大学との会場を隔年で使用しており、いつもその学校が同じ場所であるとは限らない。

県中・県南の学校は、福島大学と日本大学工学部及び郡山女子大学に毎年割り振られるので、これも対応が面倒である。会津は、県立会津大学で、この会場も、周囲から隔絶しており、磐城と同じように環境としては申し分ないが、当日の雪が何とも恨めしい状況となる。

相双地区は、原町高校での実施となるが、高校を使用するデメリットは、それなりにある。ちなみに、平成の初めごろは、いわき地区の会場は磐城高校であった。大学共通一次試験は、福島の福島北高校で実施していたので、センター試験になってからは地元でできる利点もあったが、高校で行うデメリットは、学校の延長のような雰囲気、今一つ大学入試の実感が生まれにくいといったところか。

いわき明星大学になってからは、とても良い環境であるといつて過言ではないだろう。

大切なのは、当日の交通渋滞を予測したアクセスの時間維持と、バスを使用するか、自家用車で送ってもらうかという選択にあると考える。まかり間違っても、雪など降ろうものなら、いわきの一部の自家用車はスタッドレスタイヤなどはいっていないので、あの坂道で大混乱になる可能性も否定できないことを踏まえて、準備しておくことが必要である。

去年の経験から、どれだけリラックスして当日を迎えて、忍耐強く最後まで取り組むことができるか、一つの教科の失敗を引きずらずに、いくつかのハードルを一つ一つきちんと超えていくかを自分で構築できるかが大きなポイントとなるだろう。一喜一憂せず、すべてが終わるまで、平常心で受験することが肝要である。月曜日の採点まで、揺るがない信念のもとで、目標点をきちんと設定して、それを1点でも上回ることが目標となる。